

常任委員会の「所管事務調査」

所管事務調査とは、各常任委員会が自主的にその委員会の担当している市の事務(所管事務)について行う調査です。

最終報告 総務常任委員会：市民が望む庁舎建て替えについて

調査目的

市民の望む市庁舎建て替えをめざすため、現状の把握や課題の抽出を行い、市民サービスの方向性、防災機能、DX(デジタルトランスフォーメーション)や環境への配慮の視点で調査・検討を行う。

調査内容

- ① 定例委員会における市からの報告及び意見交換
- ② 勉強会(計7回)の実施内容
 - ・ 今後のスケジュールと進め方について
 - ・ 「有識者懇談会」の傍聴などの取組み
 - ・ 市民アンケートの実施についてと市からの結果報告
 - ・ 市民フォーラムの開催についてと市からの報告
- ③ 市民フォーラムの傍聴(計4回)
- ④ 行政視察
 - ・ 令和3年11月4日 現に建て替えの取組みを進めていた府中市役所
 - ・ 令和4年5月13日 令和3年に建て替えを終えた清瀬市役所



▲現在の市役所本庁舎

今後に向けての提案

【経緯】

総務常任委員会の2年間の所管事務調査事項について協議し、「市民が望む庁舎建て替えについて」を調査事項とすることに決定しました。

同時期に市側も「基本構想策定」に向けた、アンケート・フォーラムなどを進めるなど、「市民サービスの方向性、防災機能、DX、環境」等の視点を考慮しながら、「市民は市役所庁舎に何を望み、どのような利便性を求めているのか」を建設場所も含め市民の視点で考えていく方向性で一致しました。

市側の報告内容の検討、アンケート項目のチェック、市民フォーラムや有識者懇談会の傍聴等を有効な機会ととらえ、積極的に参加しました。また府中市と清瀬市の行政視察は建設までの市民参加やDXの推進など、大いに参考となりました。

2月に決定された「多摩市役所本庁舎建替基本構想」の策定にあたって、最終的に全員協議会を開催し、質疑や提案をおこなう機会がもてたことは有用でした。



▲清瀬市視察の様子

【提案】

- (1) 基本機能(市民サービス・防災指令拠点・行政事務機能)
 - ① DXを推進し、市民が市庁舎に外向かなくてもほとんどの事務手続きを完結できるようにする。
 - ② 災害時の本庁舎の役割と避難所との連携体制も市民に分かりやすく「見える化」しサービスのアクセス性の向上を図る。
- (2) 建物性能(耐震・環境性能/ユニバーサルデザイン・セキュリティ)
 - ① 環境に配慮した省エネと、再生可能エネルギーの活用などの創エネで建物としてZEB*をめざしてほしい。
 - ② 平時・災害時を考慮、可変性を備えた可動式の仕様で柔軟に対応すべきである。ユニバーサルデザインの観点からスロープも取り入れてもらいたい。
- (3) 建築規模
 - ① 職員一人当たりに必要な平米数の足し算で床面積を計算するのではなく、共有デスクスペースやテレワークの活用なども積極的に進め、市民や職員等、誰でもシェアできる空間を広く

取ってもらいたい。

- ② 華美である必要はなく、最低限の広さを考えるべきであるが、職員の働きやすい環境を考慮、福利厚生面に配慮したものであってほしい。
 - ③ 職員の労働環境、非常時を含む人員体制に沿った規模と機能、自治体運営の中核であることを考慮した規模。
- (4) 建設位置
- ① 現在の位置で建て替えを進めることについては、大方の市民の合意は得られているが、なお身近な駅前などでのサービス拠点も充実させる。
 - ② 「サービスのアクセス性」にシフトし、駅近でできることを増やしていく予定だが、本庁への交通アクセスも再編成すべきである。周辺道路の整備や、バス路線の充実なども検討してほしい。
- (5) 建設事業手法とスケジュール
- ① 事業手法は今後の重要な検討課題である。市民要望に応えながら「設計や施工の透明性の担保」が重要。
 - ② 芝生広場などの種地に新庁舎の建設を進め、移動が完了したのち旧市庁舎を撤去する手順等が考えられるが基本構想確定後、市民代表としての議会も交えた十分な検討が必要である。
- (6) 建替えの事業費(財源の考え方)
- ① 積み立て基金をベースとし、新たな借入れは最小限に留めるよう努力すること。
 - ② 今後の社会情勢や物価高騰等の要因で事業費が変動することも考えられるが、都度、議会や市民に示しながら丁寧に進めてほしい。
 - ③ 引き続き、基金の積み立てに努力し、各種補助金等の活用にもアンテナを張って財政負担軽減に努めてほしい。

以上、基本設計、実施設計、工事の過程においても、議会が「市民の視点」で深く関与していくことが重要です。この所管事務調査を行った成果として、今後に向けての留意点等について、多摩市役所本庁舎建替基本構想の内容を踏まえ、提案します。

*ZEB: Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることをめざした建物。